

令和6年度 第1回 藤沢市市民活動推進委員会 議事録

1 日 時

2024年（令和6年）4月19日（金）午前10時～午後0時2分

2 場 所

藤沢市役所 本庁舎4階 4－4会議室

3 出席者

（1）委員 13人

山岡委員長、坂井副委員長、大高委員、大場委員、鍛地委員、関野委員、新實委員、西村委員、笛木委員、藤田委員、細沼委員、水戸委員、森田委員

（2）事務局 7人

福田部長、木村参事、森主幹、緒方専任上級主査、伊佐治主任、川島主任、土倉職員

4 議 題

○委嘱式

○第1回藤沢市市民活動推進委員会

（1）令和6年度藤沢市市民活動推進委員会年間スケジュールについて

（2）令和6年度に向けた取組及び令和6年度藤沢市市民活動支援施設の事業計画書について

（3）令和6年度ミライカナエル活動サポート事業について

（4）令和6年度市民意識調査の項目について

（5）その他

5 開催概要

委嘱式

○委嘱状の交付後、鈴木市長の挨拶、福田部長の挨拶、各委員及び事務局の自己紹介が行われた。

○委員長、副委員長の選出について山岡委員が委員長、坂井委員が副委員長に推薦された。

開会

初めに、委員会の成立状況のほか、傍聴者の状況などについて、事務局よりお願いいたします。

[illegible]

○事務局から、令和6年度藤沢市市民活動推進委員会の年間スケジュールについて説明が行われた。

日程のところですが、前期とちょっと違うのは、平日昼間になっています。去年までは夜開催ということでしたが、その辺の意図をご説明いただければと思います。

(山岡委員長) あとはどうですかね。日程はご提示いただいたとおりで問題ないかと思いますが、部会に分かれることなど、初めて委員になられた方はよくわからないところもあると思います。次回の委員会でもまた詳しくご説明はあると思いますが、もし不明点や、確認したいところがあれば、遠慮なくおっしゃってください。

振って委員長に気がついていただけるまで待つ。やはり言い出しにくいということと、きょうも皆さんの自己紹介とかを聞いて、多くとは申しませんが、皆さんの都合がよければ、対面の場を1回か2回、設けていただけるといいかなと思いました。

(山岡委員長) 今は第4回、第7回、第8回以外のところがZoomになっていますが、そこを何回か対面にしてはどうかと。

(細沼委員) 1回ぐらいでもいいですから。皆さんのご都合もあるかと思いますので。

(山岡委員長) そういうことですが、皆さん、いかがでしょうか。

さっきおっしゃっていたように、Zoom はやりにくいはやりにくいですね。私も、画面の中で手を挙げているのを探すのは結構大変なところがあります。皆さんも発言しにくいところはあると思いますので、その点については対面が可能であれば対面でよいかなと思います。ただしZoom のほうが負担が少ないとか、それぞれお考えがあると思いますので、遠慮なくおっしゃってください。

(細沼委員) 何人か意見を出して、時間内でやらなければいけないので、「残りの意見はまたメールで」となっていますが、メールのフィードバックもちょっと伝わりにくいかなというのは、今までやってきて感じている部分があります。

検討ということで大丈夫です。一回、Zoom でやってみての感想でも構わないと思います。

(山岡委員長) 今のところご異論がないようであれば対面にしましょうか。

(関野委員) どちらかというと、内容的な部分で、対面のほうが望ましい回があると思います。この中で言うと、審査に関しては、基本的には団体さんの情報ですが、全体方針にかかわるものが第9回、第10回とありますので、もし対面にあるのであれば、そのいずれかがいいかなと思います。

(山岡委員長) たしか、前年度は第10回はやらなかった。最後の1回はやらなかったのですよね。

(事務局) はい。

(山岡委員長) 第10回は第9回に集約して、なかったので、ことしどうなるかわかりませんが前年のような形になるとすると、第9回、第10回はまとめて1つになる可能性もあるので、そこを対面としてはどうかということです。

事務局としてはどうですか。今そういう提案がありましたが、会場の関係などもあると思います。

(事務局) 事務局としては、Zoom の利便性もありつつも、対面のほうがお話がしやすいということも承知いたしました。

6月7日の第3回は、スタート支援コース・ステップアップ支援コースの部会の委員の方にご出席いただくことになると思いますが、例えば、まず第2回の5月を対面でやってみて、6月はZoomを基本としつつも、やはりちょっと問題があるということであれば、それは対応するようにいたします。

まずは5月を対面開催に変更してみるということで、会場もこれから手配いたします。そういう形で対応できるように調整するということで、まずは考えてまいります。

(山岡委員長) それ以後のことについては、またそのときに。

(事務局) 第9回、第10回に関しても、対面で開催できる方向を調整しつつも、そのころまでには対面の開催を何回か回を重ねていくと思いますので、委員の皆様のご負担を見ながら、Zoomにするかというところは調整できればと考えます。

(山岡委員長) ひとまず2回目を対面でやってみて、それ以降をどうするか、また考えましようという事務局からのご提案です。よろしいですかね。

この資料はおそらく皆様初めて見ているので、Zoom か対面か、今ここで初めて確認していると思うので、「Zoom のつもりだったけど」ということはないかなと思います。ひとまず第2回を対面にするということです。私個人としては、やはり対面のほうがいいなと思っております。ただ、皆さんそれぞれご事情があると思いますので、毎回対面で参加するのは難しいということがあれば、それは率直におっしゃっていただいて、皆様が対応可能なやり方を採用するべきと思っております。

以上でよろしいですかね。ほか、日程についての確認はいいですか。——よろしければ、以上で議題(1)を終了とします。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

議題(2) 令和6年度に向けた取組及び令和6年度藤沢市市民活動支援施設の事業計画書について

○事務局から令和6年度に向けた取組、及び市民活動推進センターセンター長関野委員から令和6年度藤沢市市民活動支援施設の事業計画書について説明が行われた。

(山岡委員長) それでは、今の事務局と関野委員からのご説明について、確認しておきた

いことなどございますでしょうか。

資料2も3も前年度の最後に出てきているものなので、継続の委員の方は1回ごらんになっているものです。資料2のほうは、補足としては、基本計画にひもづいている事業計画だということです。令和7年までの計画がありまして、その中に基本指針、基本施策があり、それにひもづく活動、事業です。

(坂井副委員長) 1点だけお伺いしたいと思います。今、ご説明いただいた部分ではなくて恐縮ですが、資料2の4ページの下に「参考指標」が載っています。これを見て「おっ」と思ったので、そこだけ伺います。

市民活動団体の活動状況調査で、「事務所や専用スペースが無い」というのが年々ふえているなと思いました。その下の「団体が打ち合わせに1番多く使用する場所『市民活動推進センター・市民活動プラザむつあい』」の利用頻度は、だんだん減っているように見えました。この辺はどのように理解するのかなというのを伺いできればと思いました。

(関野委員) まず、コロナ前の段階で一番利用が多かったのが2017年です。そこまでは、市民活動推進センターと市民活動プラザむつあいは、基本的には右肩上がりでしたが、市民活動プラザむつあいに関しては、利用規模というか、件数、人数で言うと、市民活動推進センターより大分小さくなります。では何が原因かというのと、Fプレイスができた年が2018年です。正直、そのときにガクッと減りました。要件を満たしている団体さんで余裕があるところは、新しい施設のほうが、きれいで使いやすく、上には食堂もありますし、いいんだなと。正直、当時からそういうところは感じていました。

その後で言いますと、当然、市役所の会議室も市民活動団体さんが使えるようになりました。うちも、市のほうと「NPO法人さんは安くないの？」みたいな話もさせていただいたりしました。市民活動推進センターに関しては、周辺環境が、新しい部屋が使えるところがふえているというのは、割と大きな原因にはなっています。

ただ、どちらかというと、並行して最近感じているのは、うちの強みが、そこで何ができるかという、作業を並行してできるというあたりで、印刷関連です。うちも、「支援しちゃっている」という言い方になるとよくないのですが、ペーパーレスとかDXとかを団体さんには勧めていたり、そういう講座を実施してたりします。結局、自立支援なので、そういうことをすればするほど、通常、利用する場としての相対的価値は下がっていくなというのは自分としては感じています。

一概に悪いこととも言いがたいのですが、ただ、コロナの中で動きにくくなったところで、相談の件数自体はコロナ前に戻りつつあります。計画書にも書かせていただきましたが、役割的に、場というよりは、個別支援の場としての価値を高めていく必要があるかなとは感じています。

(山岡委員長) センターは、1つは場ではありますけれども、市民活動支援のあり方、形みたいなものが、コロナの影響も当然あると思いますが、少しずつ変わってきているということです。

(笛木委員) 感想になってしまうかもしれませんが、私もFプレイスと藤沢の推進センターとプラザむつあいも使っています。

直近で言うと、私が自治会の副会長をやって、3月に総会の資料を70部用意しなきゃいけないというときに、コンビニへ行くのか、どこへ行くのか。前年度から市民活動プラザむつあいで作成しているということで、それを引き継いで、3月に行きました。すごく親切に教えてもらって、初めてだったのですごく助かったのです。ただ、コストとして、利用できる団体が限られているにもかかわらず、安くないなと率直に思いました。たった20ページ、両面なので10枚ぐらいしかなくて、それを70部で9000円ぐらいかかりました。登録した団体しか使えないのに、ちょっと高いのかなと正直思いました。

あとは、藤沢のほうは、会議室とかも使えて、NPO法人のFP相談室のほうは、あしたも会議室で定例会をやらせていただきます。荷物を置ける場所とかがあったり、そこは結構充実しているなと思います。Fプレイスはきれいで、先月、娘のピアノの発表会もそこでやって、すごくいいなと思いました。むつあいのほうは、実際はあまり稼働していないのかな。1日そこにいて、誰も来なかったという印象なので、そこはちょっとまた考える必要があるのかなと思いました。

あくまでも感想です。

(関野委員) 市民活動プラザむつあいに関しては、実は頑張ってふえてきてはいます。基本的に、市民活動推進センターの利用者数、件数は、コロナ後に回復している部分がありますが、コロナ前は、先ほど申し上げたように減っていたのです。しかし、市民活動プラザむつあいに関しては、わずかですが、実は右肩上がりというのがコロナの最初の年以外は続いているという状況です。

あそこの2階は目的がないと上がらない階なので、どちらかというと、うちの担当の

者とか、割と地域の集まりに……。本館はそういうところにそういう顔で出にくいのですが、あそこは複合施設なので、関連する会議とかに出て、それで周知しやすいのです。そこで頑張っているというのが今の状況です。

ただ、六会に移転してから、もう時間もたっていますので、ちょっと周知が足りないとご指摘されたら、そこはもっと力を入れなきゃいけないなということになります。

印刷の値段に関して、印刷は白黒でやられましたか。

(笛木委員) 白黒です。

(関野委員) 実は市民活動推進センターのほうだと片面5円の機材を導入できているのですが、市民活動プラザむつあいにはできていないので、ちょっとお値段が上がってしまっているのと、結構ぎりぎりです。一昨年、うちも用紙の仕入れ価格が上がって、その値上げをせざるを得なかった面があります。逆に言うと、コピーはそこで据え置きをしていますという状況です。そこは結構厳しいですね。この場でどうしますと言えないのはこちらとしても歯がゆいのですが、一応、内情はそんな感じですよというところはお伝えしたほうがいいかなと思います。

あと、やはりFプレイスはきれいですよね。私も何度か別の団体さんの会とかに参加したときに、広い、きれいというすごくストレートな感動しかありませんでした。ふだん、狭い、汚いとは言いませんが、そういうところでよくやっているの、こっちとしても、やはりそういう感情を持ってしまうですね。

(細沼委員) 今、笛木さんの意見もそうですが、印刷に関しては以前もこの会議の場で伺ったかと思いますが、コロナ禍のときもそうですし、湘南大庭地区に関しては、プラザむつあいさんまでは車がないと行けません。部数も、紙の量も多いので、車を持っている方が車を出して、何人かで行って、印刷作業をするということを、49の自治会・町内会の方がコロナ禍からずっとやっていたらいいと思います。

もちろん、自治会に印刷機を持っているところもありますし、印刷屋さんに外注に出しているところもありますが、私の調査によると、ほとんどの方がプラザむつあいさんに行っていて、それがすごく負担だという意見が出ました。今は自治会連合会のほうで、用紙を持ってきていただければ、センターの印刷機で無料で印刷できるようにしています。事前に公民館に予約してもらって、印刷機を1時間ぐらい、何人か来ていただいて、もちろん、作業場もあるので、そこで印刷していただく形になっています。

インク代は自治連で持たせていただいています、紙代はかかります。700世帯ぐら

いある自治会さんでは大量になります。そういう負担を自治会・町内会に対して少しでも減らしてあげたいなという思いでやっていますので、プラザむつあいさんに関しては、湘南大庭に関しては、今は多分あまり行っていないかなと思っています。

(山岡委員長) こういう現場でお感じになっていることとか、されていることも、ぜひこちらで共有していただければ参考になると思いますので、よろしくお願いします。

そうしたら、以上で議題（２）を終了とします。

議題（３）令和６年度ミライカナエル活動サポート事業について

(山岡委員長) それでは、今のご説明について、確認しておきたいことなどございますでしょうか。

(鍛地委員) 今年度初めてなので、質問させていただきます。ミライカナエル事業については上限がありますが、それぞれ何枠まで、何団体までという上限はあるのでしょうか。

(鍛地委員) もう一つ、いろいろ告知されて、応募もふえているということではあります
が、上限がある中で、応募の目標値とか、毎年、何団体以上応募してほしいとか、そう
いった数値目標みたいなものを持っているのでしょうか。

るところです。

(鍛地委員) それをクリアできるように広報活動をしているということですね。

(事務局) はい。

(山岡委員長) 団体数に関しては予算の上限なので、申請額によって変わってくることもあるということですか。

(事務局) 基本的には上限で持ってくるような団体さんが多いので、上限がある中、5万円だけとか10万円だけとやってくる団体さんはあまりいないので、なかなか難しいかもしれません。

(細沼委員) 資料5の電子回覧板普及支援事業に関して、この担当の職員の方から、この資料を総会で配ってくださいということで、データでいただいています。先日、いらっしゃったときにお会いしたので、その方には伝えたのですが、説明会は7月13日(土)に湘南大庭市民センターが入っています。どこも小ホールやホールで開催されるのに、「各回定員：20人程度」というのはどういうことかとお聞きしたら、例えばうちだと49あるので、49の席は確保してあるという意味らしいです。

これを49の自治会の会長に総会で配りますが、「各回定員：20人程度」というところを見ると、すごく違和感もありますし、自分たちの席がないと私は思いました。もしできるのであれば、ここのところはデータを修正していただきたいと思います。例えば、各自治連との共催の部分に関してはお席をご用意してありますとか、そういうニュアンス的なことはお任せしますが、今のままだと、これを渡すときは一言ずつ、「皆さんのお席はあるので」とつけ加えながらお渡ししないといけないのです。

うちが11時にしたのは、前段階で、毎年、応援講座をやっているからです。初めて自治会長になる方がほとんどなので、今後、自治会長として、どんな年間タイムスケジュールでいろいろやらなきゃいけないのかとか、助成金の細かい説明とか、不安をなくすために毎年やっているのです。それが10時から行われるのですが、これを前倒しして9時45分から10時45分までさせていただいて、お帰りになる方はお帰りになり、残る方は残っていただければ、1回でというか、半日で2つのものがやれるかなということです。職員の方に、できれば11時からにさせていただきたいということで、15分で配置転換とかをやっていただく。11時から、多分、近隣の遠藤地区とか善行地区の方がいらっしゃるのかなと私的には把握しています。

このあたりの、「各回定員：20人程度」というところを直していただいて、もう一度

データを送っていただけると、普通に総会でお渡しできるかなと思っていますので、よろしく願いいたします。

(事務局) すぐご対応できるかどうかはわかりませんが、ちょうど市民活動推進センターさんのほうで全部印刷してきた後、担当が配ったみたいです。

(関野委員) 市民活動推進センターというよりは、場所というか、機材を使われただけなので。

(細沼委員) カラーで来ているのですが、印刷しなくてもいいので。

(関野委員) どちらにしろ、データを変えたものを送ってほしい。市民活動推進センターにかかわっている人にもシニアネットの方はいるので、そちらには伝えさせていただきます。

(細沼委員) そういう意見が出て、20 人というのは……。見たらホールじゃないですか。ホールで 20 人ってすごいなと思いました。ただ、これプラス、うちだとマックスで来たとして 49 人なので、ホールだと 100 人くらい入れるということです。

(関野委員) お伝えしておきます。

(森田委員) 遅れてすみません。森田と申します。よろしくお願いします。

今の電子回覧板の件で、たしか、これを採択する際に、自治会の会長さんだけだとデジタル化についての思いというか、やりづらい人もいるので、住民の中でもっと若い方とか、こういったものが得意な方も巻き込みたいという意図があったと思うのです。そういう意味で、プラスアルファの定員を確保したのだと思います。

これを見る限り、なかなかそこが伝わってきていないので、要は、担当者だけでなく、もう少し積極的に広げたい。もし今後、追加の発信をされるのであれば、入れないと、結果的に、予想したような計画にいかないのかなという懸念を持っております。

(事務局) 担当に申し伝えます。ありがとうございます。

(新實委員) ここは私も同じようにメッセージとして、こうだとたくさんの方が聞ける。でも、この 20 人程度というのは、主催団体さんが個別に相談する可能性が 20 人なのかとか、いろいろ考えてしまうのです。だから、もう少しやさしく書いていただけたら非常にありがたいです。

(大高委員) 別のお話をさせていただきます。このミライカナエル活動サポート事業ですが、年間のスケジュールでプレゼンの審査の場を何回か設けていただいています。我々はプレゼン審査というのは、あくまでプレゼンを聞くだけで、中身を、実際に現場を見

に行くとか、そういう活動はしないという感じでしょうか。あくまでお話を聞くだけで我々はそれを判断しなければならないのかというところは、去年、おとしはどのような活動だったのでしょうか。

(事務局) そこについては、活動については、実施前の審査になるので、まだやっていない段階なので、あくまでもプレゼンテーションと申請書類で審査をしていただく形になっております。

採択後、始まる事業については、特段、皆さんで見に行く会とかを設けているものでもありません。ただ、団体の希望もあり、こういった事業をやっていますという発信は、今の協働コースのようにさせていただくことがありまして、その場合は、委員会としてという形ではなく、委員個人としてという形にはなりますが、行っていただくことはもちろん可能になっております。

(山岡委員長) 活動の現場を見てから審査というのはなかなか難しいかもしれませんが、ここを通った後、中間報告会というのがありまして、そこで進捗をかなり丁寧に、ディスカッションなどをしながらお聞きする機会があります。

(関野委員) 審査段階で言いますと、ご登録されている団体に関しては、ふだん、どのような様子かとかは、聞いていただければ、施設がかかわっている限りはお伝えできるかと思います。

(山岡委員長) よろしいですかね。今 18 団体が来ているということで、しかも、クチコミというのはうれしいですね。ミライカナエルは5年目になるので、これまでの事業を通じてクチコミである事業はいいよということが広まっているのだとしたら、うれしいなと思います。

では、以上で議題（3）を終了したいと思います。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

議題（4）令和6年度市民意識調査の項目について

○事務局から、令和6年度市民意識調査の項目について説明が行われた。

(山岡委員長) 先ほどの基本計画の改定に向けた事前調査として、今年度、アンケートを実施するという事です。その調査票、これは定点観測的な意味もありますので、これまで実施してきた調査項目を基本に、少し選択肢を追加したりしたということです。

今のご説明について、質問等ございますでしょうか。ご意見でも何でも大丈夫です。
(笛木委員) 質問ではないのですが、個人的な感想です。

3 ページに、自治会、PTA、老人クラブ、地域団体、市民活動団体、公民館などのサークル、種類ごとに参加の理由が書いてあります。一番知りたいところは、参加しない理由じゃないかと思います。参加する人は、それなりの理由があって参加するのはいいと思いますが、市長の挨拶で、今ちょっと自治会が疲弊しているというのは、私も自治会の副会長をやっていてすごく感じています。

参加の理由があって、6 ページへ行くと、「地域活動に参加することに妨げとなることはありますか」と、参加についてはすごく細かく調査しています。不参加ではなく参加することに妨げとなることはありますかと、参加したいのに参加できないみたいな表現になっていますが、実態としては、選択肢も1「時間がない」となっていますが、時間があったら参加するかというと、参加しないと思うのです。不参加の理由だと、時間があっても面倒くさいから嫌だとか、そういうのが多分、実態だと思っています。

趨勢比較のアンケートなので、前年比どう変わったかというのが大事だと思います。実態がどうなっているかというのは自治会の支援をしているのでわかっているとは思いますが、アンケートのためのアンケートだとあまり意味がないのかなと、私はこの設問を見て感じます。どこかのタイミングで変えるなら、不参加の理由を細かく調査したほうがいいのではないかと思います。

問1－5は1で「時間がない」ときたら、多分みんな「時間がない」に丸をすると思います。自治会やPTAとか、種類によって事情は変わってくると思うので、そこも参加と同様に、不参加のほうも調べたほうがいいのではないかと思います。

感想です。

(坂井副委員長) 今の笛木委員と重なる部分もありますけれども、ざっと見たところで3点、申し上げます。

まず、資料7の問1－2に参加の理由を聞いているところがありましたよね。ここに、項目として「健康維持のため」というのを入れたらどうかと思いました。つまり、高齢者がどんどんふえていますから、家にいっぱなしじゃダメでしょうみたいな理由で参加する人も出てくるのかなと。年齢も聞いているので、そういったことを聞くのもいいのではないかと思います。それが1つ。

2つ目、8 ページの上のほうですが、問2－6「あなたが市民活動団体に期待するこ

とは何ですか」で、選択肢の中に「行政では行えない柔軟なサービスを提供してほしい」というのがあって、これを選択する方も結構いるみたいですが、そのときに、どんなことというのを聞いてみたいなと思いました。必ず書けと言うとそれを選択しない理由になるから、任意記載でもいいけれども、例えばこんなことをやってほしいんだよねというのを書けるような聞き方にしておくと、今度は次の市民活動に対するニーズ把握にもつながるのではないかと思います。

3つ目、クロス集計というお話がありました。それを積極的にどんどんやってほしいと思っています。例えば、9ページの問3-1で「あなたはボランティア活動に関心がありますか」と、ある、ないを聞いています。次に、参加したことがある、ないを聞いていますが、ここが大事なのです。関心があって参加もしている人は、あまり政策対象としては重要な層ではない。関心はあるけれども参加していない、そこに参加するほうへ行かせることはとても重要な政策目標になってくるので、その状況を把握できるように分析したほうがいいのではないかと。あとは、なぜ参加しないのかということにひもづけて聞いてみるとか。あるいは関心がないなら、相手としてはそこが一番難しいけれども、なぜかということにひもづけて聞いてみるのもいいかもしれません。

そういう分析ができると、次の施策はこれが大事だよねというのが見えやすくなってくるような気がしましたので、申し上げておきます。

(森田委員) 2点ほどあります。

1つは、今の1-2で、参加の意味、もしかしたら事前にそういった確認があったら申しわけないのですが、例えば会費を払っているだけでも自分は参加していると思っていらっしゃる方、例えば自治会もそうですし、市民活動とかでも、とりあえず払っている、寄付と同じで、それでサポートはしているよという感覚の方は、ちょっと迷われるかなというのがありました。例えば行事の参加の頻度とかにされるのか、会費のみみたいな項目を入れられると、答えやすいのかなというのが1つです。自分自身がもしやろうとしたらどうだったかなというのがありました。

もう一個は、7ページの、先ほど笛木委員がおっしゃったことにつながる場所もあるのですが、坂井さんがおっしゃったように、ターゲットとして全く関心がない人よりも、少し関心がある人をどう引き込むかということにもフォーカスするのであれば、時間がないというのは当然たくさん出ると思いますが、時間があっても時間が合わない人も結構いらっしゃると思うのです。

特に、地縁団体の方は平日の昼間が多い。関心があっても、仕事をしていると出られないというところもあぶり出さないと、おっしゃるような地縁団体とNPOの協働の活性化は見えてこないのではないかと思います。もし可能であれば、「時間が合わない」とかを入れてもいいのかなと思いました。

それから、不参加の理由を聞くという問いかけは、なぜやらないのかと、公共のアンケート的に問いたすみたいな言い方になってしまうので、あえて「参加することに妨げ」と書かれたのかなと私は想像しております。笛木さんがおっしゃりたいことも、ここに網羅して構わないと思うのです。もしかしたら、関心がないということがあらわれではあるけれども、もっと「面倒くさい」というのがあったほうが答えやすかったり、実態を把握しやすいのであれば、それも1つかなと、今、お話を伺って感じました。

(新實委員) 私は自分で答えるつもりでこれを読ませていただきましたが、非常に親切だと思います。「地域活動とは」という形で最初にちゃんと定義づけされているので、せっかく市民の方が時間をとってアンケートをするのですから、自分の知識として吸収できるアンケートがやはり大事だと思います。そういう意味において、このアンケートはすごくよくできているなと思いました。

先ほどおっしゃったけれども、健康寿命を延ばすためには社会活動というのはすごく大切だというのは知識として、情報として、テレビとかマスメディアでも出ているので、こことひもづけると、このアンケートをとることによって、私もやってみようかなと思う人がふえるかもしれないと思いました。私は「健康のために」という1行を、ぜひ入れていただけたら非常にうれしいなと思いました。

あとは、今、森田委員がおっしゃったように、心情的な形のハードルがあるのではないかという気がしました。「面倒くさい」、特に「人間関係の煩わしさ」という言葉も入れておくといいのかもしれないなと感じました。

(藤田委員) 1点質問ですが、前回のアンケートの回収率の42.5%というのは、目標数値より低かったのか、高かったのか、どうなのでしょう。

(事務局) こちらの回収率は、さらに前の回収率と比べて大きく変動していないので、大体このぐらいの回収率を今後も想定したい。もちろん、なるべく多くの回答をいただきたいのですが、今回のアンケートが幅広い年代の方にするアンケートということで、それもあって大体このぐらいの回収率なのかなと。

実は、年齢層が高いと回収率はかなり高くなるとか、そういう傾向があったりします。

あと、この調査が一般にも無作為抽出で送りますので、市民活動に本当に全く関心がない方のお手元にも行きます。そういった中での回収率と受けとめている数字ではあります。ただ、今いただいたように、なるべく高い回収率をめざさないといけないと思っていますので、今回からはオンラインでの回収を加えて、より多くの方からご回答いただけるようにしたいと思っています。

(藤田委員) 恐らく若者の回答率を上げるためにインターネットを使ったのは、本当にすてきだなと思いました。

あと、この案内文を見て、「市民活動推進計画をつくりたいからアンケートをください」だと、ちょっと回答しにくいのかなと思います。例えば、「3年後の子どものために、5年後のために、いい藤沢をつくりたいので調査に協力してください」とか、優しい文言があってもいいのかなと思います。

(関野委員) 時間もないので、1点だけ簡潔に。変更点の6から見ていただくと早いのですが、問3-5、11「職場の取組の一環として」となっていますが、これは10代、20代にも聞くので、「職場、学校の取組の一環として」にされたほうがいいと思います。

(細沼委員) 3ページの「全員の方にお聞きします」の問1-2からのものは、参加の理由の項目が全部同じです。そこはしょうがないかなと思うのですが、私がすごくひっかかるのは、3「職業人や住民としての責務を果たすため」というのは、一般の何も参加していない人が、責務を果たさなきゃいけないのかなと、余計に参加しにくくなるかなと率直に思いました。職業人はあるのかもしれませんが、住民として責務があって市民活動に参加しなきゃいけないのかと捉える人もいるのではないかと思います。

(山岡委員長) たくさんご意見が出ました。これはまだ少し時間があります。今いただいたご意見はどれも、そうだなと思いながら聞きましたが、そうはいっても質問をふやすと回答者の負担がふえるので回収率は下がるのかなとか、いろいろな事情もあると思うので、今いただいたご意見をもう一度事務局で検討いただくということでよろしいでしょうか。

(事務局) 今すごく貴重なご意見をさまざまいただいたと思っています。言い方を少し優しくすることは必要なのかなと思いますし、あとは、課題を浮き彫りにするという役割と、強み、今やっけていただいている方がどういう動機でやられているのかを調査する、両面があるかなと思っています。その中で、適した表現方法とか、設問の内容については、今いただいたご意見を踏まえて、こちらでも改めて検討したいと思っていますので、よ

(山岡委員長) 今、鐘が鳴りまして、終了予定は 12 時ということですが、若干の延長を
ご了承ください。

ひとまず議題（４）はよろしいですかね。——では、ここで議題（４）を終了したいと思います。

(山岡委員長) 最後に、議題（５）「その他」について、事務局よりご説明をお願いいたします。

次回は5月 22 日 (水)、午前 10 時からとなります。本日、ご審議いただきました中
にございましたように、当初のスケジュールでは Zoom での開催といたしましたが、対
面での開催ができるように調整いたしますので、詳細につきましては、また改めて開催
通知でご案内させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。